

日本洋書協会会報

Vol. 33 No. 8 (通巻387号) 1999年8月

理事会報告

7月23日(金)

1. 会員増強運動の基本方針が策定されたので直ちに活動を開始する。(斉藤理事)
2. 日本複写権センターへの申し入れは7月末～8月上旬に実施される見込みであることが、金原理事より報告され、了承した。
3. ワコー洋書販売(株)の7月31日付退会届を受理し、承認した。また、ケンブリッジ大学出版局の入会申込みを審議、正会員として入会を承認した。この結果、7月末日現在で正会員78社、賛助会員2社となる。
4. 雑誌購買契約に係わるエルゼビア社の新方針につき、同社日本法人・深田社長による会員対象の説明会を去る7月1日に開催した。27社より45名が出席。(戒井理事長代理)
5. 懸案の共同物流プロジェクトを実行可能な地域からスタートする旨の戒井理事長代理の報告を了承した。
6. 海外の主要出版団体、関連出版社に協会名改称の挨拶状を送付する。(新田理事)

海外ニュース

著作権もオンラインで

COPYRIGHT CLEARANCE CENTER (CCC) が、
 Reproduction Licensing Service (RLS) を開始した。

これは、オンライン上で自動的に著作権許諾業務を行うプログラムで、著作権保持者はそれぞれ別個の著作権料を設定することができるほか、請求の内容をモニターし、再販売するうえでの媒体をコントロールする。これらすべてはオンライン上にて行われ、CCC からは使用できるコンテンツのデータベースおよび技術的なインフラが提供される。

RLS は CCC がこれまで提供してきた著作権許諾業務を、セルフ・サービスによるデジタル業務として拡大したものと言える。パスワードで防御された方式で接続することで、各出版社は CCC が提供する自社著作権の許諾情報を随時得ることができる。

各出版社は CCC のホームページ (<http://www.copyright.com>) から自社のアカウントにアクセスし、著作権料を設定し、自社著作物を印刷物、E-MAL、CD-ROM、インターネット、パンフレットなどなどの媒体に再利用させるか否かの判断を下す。

RLS は利用者が著作権所持者を探したり、利用可能なコンテンツの情報を得たり、また、ウェブ上での権利状況をコントロールしたりすることを助けるだけでなく、更に、探している著作物が CCC のデータベースに載っていない場合は、保持者にコンタクトを取ることまで行ってくれる。

PUBLISHERS WEEKLY/JULY 19, 1999

目次

理事会報告・海外ニュース	1	うちの会社	3	中高年に迫り来る英語とパソコン	
ビアパーティ	2	委員会報告 ほか	3・4		6・7
		出版文化史逍遙(38)	5	広告	8

ビアパーティ'99

「暑いですね。」「お暑うございます。」というあいさつが口ぐせとなってしまっている大暑の7月23日に、恒例のビアパーティが新宿のホテルサンルート東京において開催された。新生JAIP（日本洋書協会）の出発を祝うかのように、当日は気象庁より“梅雨あけ宣言”も出され、いかに日頃の行ないの良いメンバーが揃っているかが周知の事実となった。

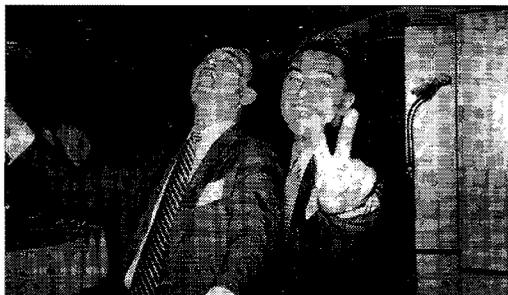
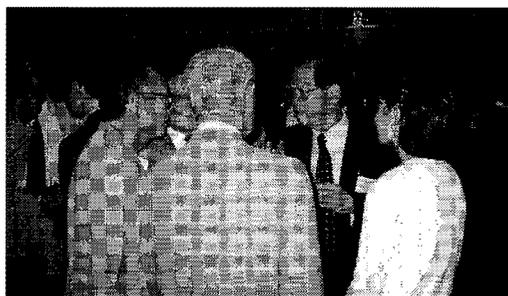
パーティは齊藤理事（文化厚生委員会委員長）のオープニング・スピーチで始まり、七回目となるビアパーティは若さ漲るパーティとなりつつあり、45社から187名もの参加を得たことにお礼が述べられ、さらに新しく決めた会員増強の方針のもと、来年は200名を超える参加を得たいとの抱負が述べられた。次いで、鈴木理事長があいさつと乾杯の音頭をとられた。理事長は、文献社会の変化が多彩となったが、ビジネスチャンスも不況の中でも多彩となったので、このビアパーティをおもしろい社会にしていく場として利用して欲しい旨のあいさつをされた。その後はさすがに若い人たちの参加が多い所為で、あっというまに食事の方もほぼ食つくされたようで、ビンゴが始まると熱中度もどんどん上昇していった。ビンゴは、一等・二等は極東書店の方々が連続ビンゴと珍しい光景も見られたが、中山さん（丸善）の名司会で程なくして無事終了した。丸善より寄附いただいたもの（いつもありがとうございます。）も含めた賞品が

当たらなかった皆さん、来年も参加して下さい。筆者のように何年も当たってない人もたくさんいますので。

ところで、『洋書の日』というのがあれば、何時にしたらよいと思いますか？ グーテンベルグ、蘭学事始、丸屋善七商店、輸入同業会などの出来事の由来を知らない若い筆者には無理だが、是非、適当な日を見つけてみつけていただきたい。その日は、鈴木理事長がしかるべき『洋書大賞』（仮称）を受賞した著者や関係者に、賞状と賞金を授与する。そして、記念講演会をして、ビアパーティなどというのも一興だな、などとビールをたくさんいただきながら夢ををしていた。また、文化厚生委員会では、7月の第何金曜日を“ビアパーティの日”と定めてもよいのではとか、理事の方々に、例えば「洋書と私」のような題で講演をしていただくのもおもしろいかもしれないなどと話しあっています。実現の暁には皆さんもビアパーティ以上にご参加下さい。

理事長もあいさつで述べられていたインキュベーターの機能を持たせた催しや、前述のプランなどにしても、いずれも協会財政の強化なくてはありえないわけで、本当に会員増強運動が成功しなければならないとの思いを強くしました。総合司会の和田さんはじめ、パーティの運営にご協力くださった皆さん、有り難うございました。

<文化厚生委員・柴田厚生>



株式会社 東光堂書店

東京都中央区日本橋1-7-6 中内ビル

Tel: 03-3272-1966 Fax: 03-3278-8249

当社は、故石内茂吉が1930年（昭和5年）、当時の千代田区鍛冶町にて個人営業としてスタートし、1952年（昭和27年）に法人化。1955年（昭和30年）現住所（日本橋）に移転し、現在に至っています。

当社の主な取扱分野は、建築、都市、造園、インテリア、工業デザイン、工芸、グラフィックデザイン、写真、美術と多岐にわたっていますが、キーワードは『デザイン』です。社歴からもお分かりのように、当社はこれらの分野の洋書店の草分けであり、今日著名なデザイナーや建築家が「卵」の時代からご愛顧いただいたてきましたが、その歴史と信用に支えられ、若手のデザイナーや建築家、学生さん達に頼りにされています。特に多年の経験と蓄積に基づくデータベースと

切り口は、他店の追従を許さないものだと自負しております。

但し、高度情報化社会へ転換の中、「書籍離れ」という大激流が轟音を立てています。お客様のニーズを木目こまかく捉えて、本当に美味しい「メニュー」を作っていく努力を怠ってはいけません。

当社は2002年に創立50周年を迎えます。歴史と伝統を重んじながら、より激しく変化するであろう21世紀に相応しい企業をめざし、「世界の建築・デザイン関連出版の流通の仕事を通じ、国際出版文化の発展と建築・デザイン文化の発展に貢献する」（当社企業理念）ため全社をあげて取り組んでいるところです。

真野 生道

委員会報告 〈広報・渉外委員会〉

JAIP セミナー開催

広報・渉外委員会主催のシリーズセミナー〔洋書輸入業者との対話〕—その3 “専門図書館の収書活動：最近の動向、今後の予測と展望” が去る7月27日（火）午後3時より帝国ホテルで開催されました。

講師

㈱資生堂 リサーチセンター 副主事 末廣恒夫氏

㈱経団連 情報メディアG 調査役 村橋勝子氏

大多数の会員が主力商品として取扱う印刷・冊子体に加えて、PCを介した電子メディア商品の開発・普及に伴い、CD-ROM、オンライン/デジタル情報、電子ジャーナルといった言葉が飛び交っています。また、インターネットの普及と共に各国研究機関・図書館・出版社のホームページ開設、オンラインによる書籍・書誌情報の提供、インターネット・ブックショップの出現など、書籍、データ、研究資料の入手方法も多様化し、購入者の選択肢が増えてきました。

この大きな変動を購入・利用者側ではどのように捉え

て対応し、将来をどの様に予測し、展望しているかをお話いただくと共に、我々洋書業者に対する要望や助言などを直接伺って、今後の会員の洋書商売に何らかの示唆を得る機会としてこのセミナーは企画されました。

前2回はそれぞれ人社系大学教授および理工医学系大学図書館管理職の方々に講師にお招きしましたが、今回は同じテーマで企業の専門図書館で長年運営に携わっておられる方々のお話を伺いました。広報・渉外委員会では今後も引き続きこのような勉強会を企画し、会員の研鑽の場を設けて行きます。ご期待下さい。（清水弘文記）

新会員を紹介します

会員社名：ケンブリッジ大学出版局

東京都千代田区神田駿河台 2-9

Tel:03-3295-5875 Fax:03-3219-7182

代表者：ジェイムズ・ハーストハウス氏

主要事業：Cambridge Univ. Press 日本事務所

入会日：1999年8月1日

会員資格：正会員

よろしくお願ひします。

第92回 72会ゴルフコンペ

鎌ヶ谷カントリークラブ 1999.7.6 (火)

72会ゴルフコンペが、鈴木理事長(丸善)のコース鎌ヶ谷カントリークラブで開かれました。梅雨のさなかで、雨が心配されましたが明け方には雨も止み、風もそれ程強くなくまずまずの天候のもと、24名参加で賑やかなコンペとなりました。松林に囲まれた平坦でゆったりした美しいコース、フェアウェイ、グリーンともに手入れの行き届いた素晴らしいコースで熱戦が繰り広げられました。

優勝は「前回参加の際、優勝逃して残念、今回はリベンジ、長いパットが入って良かった」との江口さん(CDI)。難しい高麗グリーンを制しての優勝、立派でした。2位は「出来すぎ、楽しくやれた」との雨宮さん(タトル商会)、49/49の堅実なゴルフは美事でした。3位の田中さん(医学書院)はこのコースの近くにお住まいとか、地元の強みを発揮(?)「メンバーに恵まれた」とのコメント、実力通りのゴルフでした。

ゴルフの後は冷たいビールで喉を潤しながら、成績発表、表彰式、そして入賞者のスピーチ、拍手、笑い声の賑やかなパーティになりました。鈴木理事長(丸善)、文化厚生委員長斎藤さん(UPS)、中林さん(日貿)等々愉快で有意義なスピーチが続き、談笑のうちにお開きと



なりました。

	成績表	G	HC	NET
優勝	江口隆三 (CDI)	101	28	73
2位	雨宮孝行 (タトル商会)	98	22	76
3位	田中泰介 (医学書院)	92	12	80
4位	池田篤治 (極東書店)	101	19	82
5位	松浦拓己 (丸善)	96	14	82
ベストグロス賞	斎田利幸 (三善) G90			
ドラコン	斎藤純生 (UPS) 森田要 (東亜ブック)			
	入田規弘 (日販 IPS) ×2			
ニアピン	池田篤治 (極東書店)			
	村上道夫 (東京ブックランド)			
	江口隆三 (CDI) 森田要 (東亜ブック)			

(HN記)

海外ニュース

Japanese trade body change

The Japan Book Importers Association (JBIA) has changed its name to Japan Association of International Publications (JAIP).

The change reflects an expanded role for the organisation. Membership has been opened up to publishers who sell their rights overseas, as well as those who publish in Japan.

JAIP may be contacted at Chiyoda Kaikan, 21-4 Nihombashi 1-Chome, Chuo-Ku, Tokyo 103-0027, Japan (tel +81332716901).

THE BOOKSELLER AUGUST 13, 1999

お詫びと訂正

7月号記事中の誤植を見過ごしていました。お詫び申し上げますと共に、訂正させていただきます。

理事会報告 (P. 1)

2. 会員増強委員会

(誤) 副理事長: 鶴 理事

(正) 副委員長: 鶴 理事

エルゼビア社説明会 (P. 2)

(誤) エンゼビア・サイエンス(株)

(正) エルゼビア・サイエンス(株)

委員会編成 (P. 3) に下記の方々を追加します。

会報委員会 委員 塚本正広(インターナレッジ)

文化厚生委員会 委員 尾崎繁美(エイビス)

編集者 高橋 紘

明治初期の目録に見る洋書〔10〕

丸善・本の図書館 鈴木陽二

◆明治16年洋書目録に見る輸入の状況(1)

前回まで紹介した明治9年の丸善洋書リストは、輸入業者の洋書案内としては恐らく現存最古のものではないかと思う。以前述べたように、丸善は明治7～8年ごろから洋書目録を発行しだしたという記録もあるが、これは確認できない。一方、創業者早矢仕有的の年譜によれば、かれの従兄弟に当たる民治が明治13に洋書目録の編集担当になったことが記されており、『丸善百年史』でもこの年をもって洋書目録の刊行開始としている。丸善が創業初期横浜の外国商社を通して洋書を仕入れていたのが、明治6年ごろにアメリカから直輸入を開始し、明治7年にはイギリスと取引を始めたという経緯を踏まえると、そのころに洋書目録の発行が始まったというのは十分に考えられる。洋書の輸入統計を見ると、明治6年に金額ベースで前年比195%と約2倍の輸入増加を示しており、以降年によって多少の増減はあるにしても高い輸入レベルで推移している。丸善の洋書の取扱いが、直輸入の開始によって明治6年ごろから大きく増大したと推定することができ、その点輸入統計の数値とも符節するのではないだろうか。

さて、明治初期の丸善洋書目録は、明治9年に次いで明治16年が残存している。明治9年は紹介したように、単行本に付載したわずか4ページのリストであったが、明治16年のものは単冊で発行された独立の目録である。そして、筆者の知るかぎりでは輸入業者の営業用の洋書目録としては現存最古のものである。

明治初期に日本に存在した洋書は、当時の公共図書館や大学図書館などの目録で検証することができる。一応明治16年までを列記すると、明治8年の工学寮と東京開成学校（いずれも東京大学の源流）、明治9年の工部大学校（東京大学の前身）と東京書籍館（国会図書館の源流）、明治10年の東京大学法理文学部図書館と札幌農学校年報に附載された蔵書目録、明治11年には工部大学校、明治13年の工部大学校と東京大学法理文学部図書館、明治14年の教育博物館、さらに明治15年の太政官編纂の『諸官庁所蔵洋書目録 経済之部／法律之部』などの目録が現存しているので、どういう機関にどんな洋書

が収蔵されていたかを知ることができる。しかし輸入業者の洋書目録では、明治16年の丸善発行のものが最も古く、この目録によって洋書の輸入という海外文化の摂取活動の具体像を時代限定でたどることができる。

さてこの明治16年の目録は、表題が、英文で“A SELECT LIST OF GENERAL WORKS, COMPRISING ENGLISH, FRENCH AND GERMANY. IMPORTED AND PUBLISHED, AND STATIONARY. Z. P. MARUYA & CO.”となっており、それに『洋書并文具目録 丸善商社』という日本語表題が添えられている。縦15.7横11.2センチの小型冊子で、洋書部分53ページは42の分類がアルファベット順に配列され、英語書籍1062点、ドイツ書とフランス書籍154点が収録されている。

まず点数の少ないフランスとドイツから見ることにしよう。フランス書41点の中ではフランス革命史の研究で著名な歴史学者ジュール・ミシュレの『フランス史』全8巻とフェヌロンの『テレマックの冒険』が目立つ程度で、その外は語学書と教科書である。ドイツ書での特徴は、113点中医学系図書が62点とリストの半分以上を占めていることで、これは英語医学書59点を上回っている。このドイツ医学書の大量リストは、明治3年の政府によるドイツ医学採用の決定によって、日本の医学がドイツ医学を規範にしていた理由によるものであろう。書名に「ルールブック」と付く教科書が大部分であるが、なかにはドイツの有名な生理化学者ホッペ＝ザイラーの名著『生理化学大全』も見られる。医学以外ではスイスの法学者J. C. ブルンチュリの著作が3点収録されているが、太政官時代に文部大丞で侍読に任ぜられた加藤弘之（後年帝国大学総長）がブルンチュリの主著『国家学』を天皇に進講し、それにもとづいて明治5年には文部省蔵版で『国法汎論』を刊行した。これは明治初期の重要な出版物のひとつとなったもので、近代化日本の国家観・政治観の形成に大きな影響を与えた。ちなみに、この本は明治9年には丸善の発兌書となった。

〔参考文献：菊地重郎「明治初期の公刊洋書目録史考」『英学史研究』1972／『丸善百年史』〕

中高年に迫り来る英語とパソコン

日本語から 川柳で掴む 現代英語の姿

島岡 丘

誰しも年をとっていく。近所の小学生たちもあつという間に高校生。近くのご老人もだんだん腰が曲がっていく。明日はわが身も同列に年を取るのか、いや年は取るまい、自分は世界でただ一つの存在なので、何かユニークさと若さを保つ方法を探そうなどとつまらぬ思いをめぐらしたりする。

最近、偶然だが、兼子昭一郎氏の「老後の不安を消す法はないか」という小論を読む機会があった。それは「共催だよりレター (Vol. 7)」に掲載されたものであるが、そこには、若い日本人が将来に不安を抱えていることについて、データをもとに述べてあった。すなわち、経済企画庁の「1998年度国民生活選好度調査」では20歳以上の国民の73%が老後の生活に不安を抱いていると書かれているようだ。

兼子昭一郎氏のその論文では、老後の不安が全くないと言われている、米国のサンシティに行かれた故細川英夫氏のことが述べられている。サンシティは、ご承知のように、私的年金を運用する会社が設計してきた町で、無料で町の施設・設備が利用でき、不安がまったくない都市である。絵の好きな人は、老後の心配をせずに好きなだけ創作活動にふけることができ、悠々自適の生活を楽しめるのである。

しかしながら、そこには、作品をほめてくれたり、けなしたりする人たちがいないので、空しさを感じると、細川さんが気づいたとある。細川さんの人生設計はわれわれの将来に希望を持たせるものであると思うのでここに紹介したい。

日本の場合は社会が「大根輪切り方式」で、兼子氏が指摘するように、人生は「成育期、収穫期、成熟期」に分かれる。実際に、60歳またはそれに近くなると定年になり、たとえ会社や組織団体にとって大事な人材であっても否応なしに退職させる。

しかし、私の知っているところでは、イギリスでもアメリカでも日本ほど年齢にこだわらず、柔軟に考えているようだ。私が40年前に教えていただいたウェールズ大学の Wynn 先生も、代わりの先生が見つからないという理由で、すでに70歳を過ぎているが、英語史の授業を担当していた。学生たちも、その博識な教授から教わる

ということを誇りとしていた。UCLA の Ladefoged 教授は定年後も自分の研究室で研究を続けていたし、サンフランシスコ州立大学の Prator 教授も自分の研究室はいつでも来られるようになっていた。

ある名誉教授の会のとき、長老の方が、定年のない大学を作りたいと発言され、大いに受けたことを思い出す。しかし、現実問題として、定年に近づくと、忘れることが多くなったり、声が教室の後ろでは聞こえにくくなったり、老人性疾患が出ることは避けがたいようだ。しかし、80歳過ぎてても身体的な衰えもなく、知的活動がますます活発な方もおられ、個人差がやはり目立つ。

細川さんは、一見幸せそうなサンシティの人たちが、内心「人生の空しさ」を感じていることを知り、「大根の輪切り」ではなく、「短冊形に縦に切り、1日24時間を生活(睡眠、食事など)の時間、「お金を稼ぐ仕事の時間」、「好きなことをする生きがいの時間」に割って一生続けてはどうかという。ここには老後という考えはない。病気になったりしても、死ぬまで働く。生きがいはそれに並行してずっと続く。兼子氏は次のように結ぶ。「最後まで緊張と楽しみの連続がある。不安が入る余地はない」。

以上3つの生活を、英語でまとめると、

Living (L)

Working (W)

Enjoying (E)

になる。これを覚えやすくするにはLWEの順序を少し変えて、子音(C)+母音(V)+子音(C)の閉音節の構造にして、WELとしてはどうだろう。すると、老後でも、働き(W)、楽しみ(E)、生きていく(L)という川柳が自然に生まれる。もちろん、これら三つは互いに独立しているのではなくて、重複することもあってかまわない。日常生活を営む中に、楽しみの要素を入れれば、それだけ気が晴れる。要するに、どれか一つだけというのでは、人生としては淋しいものだ。

しかし、以上の理想を実現するには、世の中は必ずしも出来ていない。年金生活者がもし働いて一定の額以上の収入があると、税務署からは総合課税され、働くとは損になるという構図が出来上がる。むしろ臨時収入がないほうがよいと思うようになっている。だが、社会を活性化するためにも年金に束縛されることなく、積極的に生きたいものだ。定年を迎え、それまで蓄積された多くの知識量をすべてないものかのよう、第二の新しい

人生に切り替える人もいるが、日本の場合は少数であろう。年齢を重ねるに従って、若いときには曖昧だった概念や知識がより明確に把握できることも十分あり得るわけで、それが評価されるという点では日本の社会はすぐれているのではないかと思う。

仕事一途に打ち込んできたいわゆる会社人間は、定年後時間を持て余してしまいがちだが、時間が有り余るときは、「空想の翼に乗って」図書館などでベストセラーや古典を読むのもよいだろう。視力が衰えて困るという人のために、図書館には日本文学などの大活字シリーズもある。運動不足を解消するには定期的にプールで泳いだり、ジムで汗を流したりすることもできる。

7月3日付けの日経、「春秋」には中高年にヘッドハンティング会社の担当者がいきなりぶつけるのが「英語、パソコン、国際会計」という「三種の神器」だそうだ。

若い時から英語の必要性を知ってはいても、英語嫌いになった者はどうすればよいのだろうか。英語嫌いが晩年まで変わらない人に、いきなり英語と言われても無理な話である。しかし、英語嫌いになった原因を考えると、英語がむずかしい、骨が折れる、いい成績がとれなかったというところにあったのではなかろうか。折角の再就職の機会を逃してしまうのは残念なことである。外国語をやるのはカラオケと同じで、脳に刺激を与え、脳が活性化するという良い面もある。脳の活性化は若さを保つ有力な武器であるとも言える。

英語を楽しく短期的に身につける方法はないものだろうか。そう思っていたときに、急に小学館ライフパルのほうからシニア向けの英会話の本を書いてくれるようにという依頼があった。そこで、英語が難しいというイメージをなくするために次のような方針をたてた。

- ▲1回の分量を4行対話とする。
- ▲気楽に通じさせるために強弱リズムの表示をつける。
- ▲発音記号を使わず、カナ表記をすべての文章につける。
- ▲実用性を高めるためにパソコンについての英語表現を別枠に入れる。
- ▲暗唱と隣同士の対話練習と文型の応用練習をつける。
- ▲内容を濃くするために英語の諺を毎回加える。

以上の方針で『シニアコース英会話』を短期的に作ったが、学校用の英語教科書とかなり異なっている。しかしながら、どんなテキストを作ってみても学習者自身がその表現を駆使できるまで反復練習しなければ駄目である。

英語を反復するためには発音について自信をもたなけ

れば声を出すことすら躊躇しがちになる。まず気楽に声を出してもらいたいと思って、『川柳で流暢英語のコツを詠む—川柳式英語発音マスター法』を2年前に洋販出版より世に出したが、発音と同様、文法や語彙についての規則も川柳式で反復するのが効果的かもしれない。私の考えた英文法川柳はまだ完成していないが、英文法をすでに知っている人には自信を与え、これから覚えるには潤滑油になるようなので、以下の例からその感じを体験していただきたい。

疑問詞は 常に文頭 whatとhow

機能別 英語の単語 8通り

代名詞 名詞の代わりに 大活躍

名詞から 動詞に変更 -izeつく

Be動詞 過去形ならば wasとwere

完了形 haveのあとには 過去分詞

過去完了 過去の出来事 さらに前

3人称 単数ならば he, she, it

3人称 複数ならば theyになる

isとhis 弱形ならば 同じ音

特定の 物を言うとき theを用い

水、空気、数えるときは 入れ物(container)に

補語の価値 直前動詞の 意味補充

文型6 there be用いて 「いる」と「ある」

出来事の 思いが今なら 完了形

「そのほか」はotherでなくて the otherなり

関代詞 修飾されるは 先行詞

関代は 種類は三つ who-which-that

にぎり寿司 一口ならば mouthful

エレベーター box用いず carと言う

画面から 海を越えた よい便り

キー押せば クロウンも自在 何10種

ファイル名 忘れてしまえば ただの箱

以上ではあるが、日本語固有の長所を生かして日本の中高年者が英語とパソコンに超常的なチャレンジするのもよいであろう。日本はユーラシア大陸の言葉文化が結晶した社会であるとも言える。日本語でまず川柳を通して、英語とパソコンの特徴を掴むと、その後は円滑に進むような気がする。

文法は 文を生み出す 発信源

英文法 コツを知れば 自信湧く

ということであってほしいものだ。

(茨城キリスト教大学教授)

99 フランクフルト ブックフェア 視察のご案内 (13. OCT. ~ 18. OCT. 1999)

格安航空券 + ホテル宿泊 のお得な自由日程旅行プラン

～ スタンダード クラス ホテル ～	
アンバサダーホテル プラン 5泊7日 ¥248,000	インターシティーホテル プラン 5泊7日 ¥248,000
～ ファースト クラス ホテル ～	
アラベラ シェラトンコングレス プラン 5泊7日 ¥280,000	ホリディ イン クラウンプラザ プラン 5泊7日 ¥280,000
～ デラックス クラス ホテル ～	
アラベラ シェラトン グランド プラン 5泊7日 ¥355,000	ヒルトン ホテル プラン 5泊7日 ¥350,000

- * 上記料金は 10/12(火)東京出発、全日空・日本航空エコノミークラス利用、2名1室朝食込の料金となります。
- * 上記以外のホテルや他都市の手配も取り扱っておりますのでお気軽にご相談下さい。
- * 上記プランで既に、完売しているものもございます。ご予約の際は、お問い合わせ下さい。

また、格安航空券のみの手配も承りますのでぜひご相談下さい。
(各航空会社エコノミー、ビジネスクラスのディスカウントチケットをご案内致します)

2000年ブックフェアスケジュール (予定)

★ PARIS BOOK FAIR	MAR.17-22	PARIS, FR.
★ LONDON INT'L BOOK FAIR	MAR.19-21	LONDON, UK.
★ CHILDREN'S BOOK FAIR	MAR.29-APR.01	BOLOGNA, IT.
★ BOOK EXPO AMERICA	JUN.02-04	CHICAGO, US.
★ FRANKFURT BOOK FAIR	OCT.18-23	FRANKFURT, GE.

弊社では上記見本市への視察旅行を毎年企画しております。また、上記以外のご旅行予定や、出張などございましたら、ぜひご相談下さい。

旅行手配 / 株式会社 ジェイワールド トラベル

『FIFA WORLD CUP 98 FRANCE』『4TH RUGBY WORLD CUP 99』公式認定旅行代理店
JATA 正会員(運輸大臣登録旅行業第1359号)

TOKYO - TEL: 03-3402-9955 / FAX: 03-3402-9698 (担当: 藤代)

E-Mail: tet@jw-trvl.co.jp

1999年8月 通巻第387号 日本洋書協会 編集者 高橋 紘
☎103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本総合印刷株式会社